

## 用語集

ディアナ号	当時最新鋭のロシア軍艦。安政東海地震を被災し、修理のために回航する途中力尽きて宮島に漂着しました。
ヘダ号	沈没したディアナ号の代わりとして、日本人により建造された洋式船です。ディアナ号を指揮していたプチャーチン提督は感激し、この船をヘダ号と名付けました。また、この経験は日本の造船業の近代化にも大きく貢献しました。
バラダ号 (バラダ号)	1852年に極東に向け出発した船。老朽化のため、ディアナ号を派遣することとなりました。同じ名前の練習帆船がウラジオストクに在籍しており、時々日本を訪問しています。
清輝	横須賀で建造された、わが国が初めて建造した軍艦でした。三四軒屋に座礁し、ついに再び海に出ることはできませんでした。
大沢崩れ	富士山西斜面の巨大な土砂崩れです。延長2.1キロ、最大幅500メートルで日本最大です。
漂砂	海岸の砂利は、意外なほどのはやさで岸にそって流れています。この動きのことを漂砂といいます。
ヘドロ	河口、沼、湖、湾の底などにたまる超軟弱な泥のことです。田子の浦港には工業排水も流れ込んでいたため、有機物が混じって腐り、さまざまな問題を起こしました。皆様のお力でクリーン宣言を出すに至りましたが、いままた新たな問題が起こっています。
ギャラティック号	昭和54年10月の台風20号で海岸に打ち上げられた6320トンの大型貨物船です。

## イベントメモ

### 2005 年海交流



9月25日、恒例の海交流が開催されました。不漁のために昨年度までは行えなかった、しらす祭りも本年度は開催されました。メインの会場となる鈴川埠頭と、しらす祭会場の漁港の間は渡し船が運行され、公設市場他各海上でさまざまなイベントが開催されました。

写真は2004年度のものです

## びっくり！たおれる橋



沼川水門橋 長さ20メートル×2基

大変、橋が傾いています！

でも、だいじょうぶ。この橋は津波や高潮のときに倒れて、水門のかわりに浸水を防ぐことができますのです。いつもみすごしているものにも、じつはすごい能力がかくされているかもしれません。

## 【今後の発行予定】

第3号： 田子の浦港のこれから

第4号： 発展、そして自然との共生

～都合により変更する場合がありますのでご了承下さい～

# たごのうらつうしん



いっしょに考えましょう  
富士と田子の浦港のみらい

## 第2号

## 回覧

発行：静岡県田子の浦港管理事務所

## 自然、そして公害とのたたかい

人々を癒し、新鮮な自然の恵みを与えてくれる田子浦海岸。しかしこの海岸はときに人々に牙をむき、地域を無残に引き裂くこともありました。海底の勾配がとても急なため、駿河湾の波が、まっすぐにわたしたちのふるさとに向かってくるのです。

今回は災害、そして公害とのたたかいの歴史をお話ししましょう。



ときに、西暦1854年

蒸気船4隻を擁し日本の開国を迫ったペリー艦隊が帰国して4カ月後、プチャーチン提督率いるロシア艦隊が日本との通商を迫るために来航しました。当時ロシアはイギリス・フランス両国と戦争中でしたが、皇帝の命により危険を押しでの来航したのでした。しかし、彼らには想像もしない苦難が待ち構えていました。

1854年11月、後に安政東海地震と呼ばれる巨大地震が日本列島を襲い、日本じゅうに被害をもたらしました。下田湾内にいたディアナ号は津波で被害を受け、修理のために戸田を目指しますが、今度は大しけが襲い、ついに田子浦村宮島に漂着してしまいます。宮島の人々は命がけで乗員を救い、以来ロシアとの長い友好が続いています。

さらに明治21年には897トンの軍艦「清輝」が三四軒屋に、昭和54年吉原海岸に大型貨物船ギャラティック号が座礁するなど、恐ろしい波の力が、住民と船乗りを苦しめてきました。この地を襲ったのは自然の災害だけではありませんでした。工業の発達とともに、今度は公害が問題となってきました。

自然、そして公害と、人々はいかに戦ってきたのでしょうか。

## お問い合わせ、ご意見、ご質問はこちらまで

### 静岡県 田子の浦港管理事務所



〒417-0015  
富士市鈴川町 2-1

TEL 0545-33-0498

FAX 0545-33-1009

E-MAIL tago-koumu@pref.shizuoka.lg.jp

# 災害 そして.....

## 日本一深い湾 高い山

駿河湾中央部の、富士川河口沖に始まる深い海底の凹地はユーラシアプレートにフィリピン海プレートが潜り込む谷（海溝）で、湾口部で水深が 2,500m もある日本一深い湾です。

大井川河口東側には、石花海（せのうみ）とよばれる浅瀬があり、水深 100m ぐらいで、最も浅いところは、32m しかありません。日本一の深い湾に浅瀬がある特徴的な地形をしています。

深い湾には、外洋の荒い波がそのまま入り込んでしまいます。

この深い湾に、日本一高い山からの水と土砂が流れ込んでいます。人々はその土の上に住み、豊かな水をつかって生活してきました。

それは自然の恩恵であると同時に、ときに大きな災厄を起こしてきました。

## 土砂を、そして公害をその身に

富士川はかつて豊かな水とともに大量の土砂を運び、わたしたちの富士の大地を育んでくれました。

しかしこの土砂は東側に流れ、ときに潤井川の河口をせき止めてしまい、溢れる水が人々を苦しめてきました。

田子の浦港を最初に計画するとき、いろいろな場所を考えたのですが、港を広くすることや洪水の予防などを考え、潤井川を港に入れることになりました。

岳南排水路などの工業排水も直接駿河湾に流さず、一度田子の浦港に入れてから海に流れるようにしています。

## 公害とのたたかい

そして富士山の土砂と工業排水が交じり合い、異臭を放つヘドロとなって港にたまり大きな社会問題になりました。

そして昭和 46 年に、ヘドロとのたたかいが始まりました。

とても柔らかくすくっても流れてしまうヘドロの処理は困難を極めました。大きな苦勞と、なによりも地域の皆様の協力を得て、180 万トン（東京ドーム 1.5 杯分）のヘドロをみなとから取り除き、富士川河川敷や港周辺などに埋め立てました。10 年の事業を経て、ようやく富士山を仰ぐ美しい港の姿を取り戻しました。

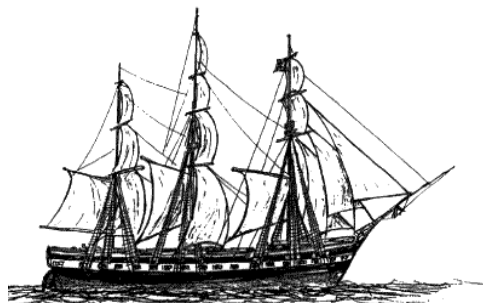
しかし、いままたみんなで考えなければならない新たな問題が起こっています。

## ディアナ号の座礁

1854 年、安政東海地震で損傷したディアナ号は、修理のための回航中に大時化にあい、宮島の海岸に座礁しました。住民の必死の努力により、たくさんの乗組員が救助されました。

その後再度の回航を試みましたが、残念ながら遂に沈んでしまいました。

ディアナ号の錨は田子浦海岸で発見されましたが、船体はいまも見つかっていません。



## 大沢崩れ



富士山西斜面の大沢崩れは、面積約 1 万平方キロメートルもあり、何度も大きな災害を起こしてきました。

田子の浦港に流れ込む川のひとつ「潤井川」もこの大沢崩れを源流にしています。潤井川、沼川、和田川などの河から田子の浦港に流れ込む土砂は、一年あたり 50 メートルプール 50 杯分にもなります。

少しでも港に流れ込む土砂を少なくするため、河口には砂をためるための落差がつけてあります。増水のときに富士川に放流する星山放水路が完成したことで洪水は減りましたが、それでも土砂は簡単に落差を乗り越え、港内にたまってしまいます。



## 波により被災した家屋 昭和 41 年台風 26 号（富士海岸）



## 海に帰れなかった貨物船



昭和 54 年 10 月 19 日、台風 20 号の高波と強風のため、6,320 トンもの大型貨物船「ギャラティック号」が吉原海岸に打ち上げられてしまいました。救援米を積み、清水港を出た矢先の出来事でした。

台風が去っても、海岸に乗り上げてしまった船は動かすことができず、この船は海岸で解体されました。

潤井川

田子の浦港